

その信念氣魄は宗祖の前に赤裸々になげ出した懺悔の道から出發しなければ眞の法燈は輝かないであらう。風來らば消ゆる長者の萬燈の末路は哀れである。貧者の一燈のみでも心細い、消えざる長者の萬燈を掲げしめよ。それには能所一体の本佛給仕

の精神の光こそ消えざる長者の萬燈であらう。諸天晝夜常爲法故」の信念ある所、守護がある。四海同歸妙法の眞の前提は給仕にあると結んで擱筆する。
(昭和十五・七・五脱稿)

絶對的現實

具體的な人間は日本人であるか、ロシア人であるか、ドイツ人であるかでなければならぬ。生物學の上で云ふ人間や、或能力の主體としての人間はその内容が凡て一様であり、しかも一個で完結したもので抽象的な智識の産物である。併、具體的な人間は必或種族でなければならぬ。一人の人が日本人であること云へば、その人が日本種族に屬してゐることになる。ところで種族に屬すると云つても種族と云ふものがその人の他にあらぬのではなく、その一人が日本種族なのである。また種族とは多人數の單なる集りではなく一人々々が種族の中に生れるのである。つまり個體は種族の全體を離れてはありえず、種族の全體は個體を離れてはありえないと云ふことが具體的な人間の眞の在り方なのである。個人主義とか自由主義とかの誤りはさきに擧げたやうな抽象的な立場に終始して、かゝる具體的な人間

幡 上 教 妙

を忘れた點にある。我日本は古來民族の大宗家に當らせ給ふ皇室を中心として、君は民の心を以て心とし給ひ、民は君の心を以て心として一君萬民一多相即して生々發展して來たのである。

大乘佛敎は全體を表すに法界の語を用ひ、その中にある自己の作佛は自己の作佛であり、自己の作佛は自己の作佛であると説き、衆生の爲に大悲を發して自己を忘じ、衆生の爲に自己を捨てることを説いてゐる。我國體も大乘佛敎も人間の眞に具體的な在り方に根底を有するものであつて、そこに悠久性と眞理性とを持つと云はねばならぬ。

具體的な人間が種族を離れてはありえない以上、個人は種族の持つ傳統を免れることはできない。種族の傳統は統制力となつて作用する。併、種族の全體は個人の自由を許し、これに反して個人は種族の統制に自發的に博力することができ。種族

の統制が非合理的な傳統であるに對し、個人の自由は普遍的智識の立場である。種族の生活が未だ原始的状態にあつた遠い昔から人間は技術を持つてゐた。そして經驗が加はり智能が磨かれるに及んで抽象的普遍的智識が發達した。由來、技術は人間自覺の第一歩に生れたものであつた。そしてその上に發達する普遍的智識は人間の抽象的反省の立場に成立する。併、さきにも述べた通り、人間は本來の具體性を離れて抽象的立場に終始することはできない。智識は具體的人間の智識でなければならぬ。そこで抽象的立場にある智識は再、具體的人間へ歸らねばならない。そこに人間の自覺的向上がある。かくて種族の傳統と個人の普遍的智識との統一に國家や文化が建設される。國家や文化は種族の地盤に具體性を持ち、個人の立場に世界的普遍性を持つてゐる。そしてこの二つのうちの何れを缺くも國家や文化は存立が危くなる。人間生活は世界的な國家や文化の形態に於てのみ實現される。かゝる現實は人間にとつて絕對でなければならぬ。神代の昔から皇統連續と續かせ給ふ皇室をいだけ日本は極めて傳統的であると云はねばならない。傳統的 성격は日本文化に多く指摘されるところである。傳統的 성격は一般に排他的性格と相通する。併ながら我日本は傳統적である反面に於て極めて開放的である。世界のあらゆる文化學術宗教と雖、いやしくも普遍性あるものは我國に包容されてその内容となる。種族の傳統は普遍性を壓迫せず、普遍性は種族の地盤を離れずそれに結びついてゆくとともに豊かな世界的日本が建

設される。こゝに日本文化は極めて現實的な性格を持つ。日本精神と云はるゝものはかくの如きものでなければならぬ。大乘佛教は普遍的眞理として我國に攝取せられた。そして大乘の深遠な哲學的宗教は日本化して、凡ての相對をそのまゝ絶對の象徴とみるころの平易な具體的な宗教となつたのである。佛教信仰に於ては現實は即、理想の法界である。日本文化の現實性は大乘佛教の信仰を通して絶對の自覺にまで深化する。これ日本が佛教化したと云はるゝ所以である。大乘佛教は眞に日本的宗教である。

佛教は具體的人間を立場として絶對無の自覺に徹する宗教である。故に普遍的智識と衝突することなく、かへつてそれを内に包み、その上に築かるゝ技術的文化を廢敗より救ひ眞に人間生活の實現を可能ならしめる宗教である。大乘佛教はたゞに日本建設の精神たるに止まらず、新時代に於ける世界建設の精神でなければならぬ。

身延山に詣て

田川 惠良

入相の鐘の響や夏霞
水仙や撫で、冷たき塗机
手洗の水も氷りて冬の朝